

令和4年新春経営者セミナーを開催

令和4年1月24日（月）ホテルメトロポリタンニューウィングにおいて、令和4年新春経営者セミナーを開催、会員事業者より総勢70名が参加致しました。

セミナーは2部構成で行い、はじめに、日本貨物運送協同組合連合会 常務理事 永嶋 功氏が講師を務め、「自動点呼機器（AI ロボット等）に向けた日貨協連の取組みについて」と題し、トラック運送業界では、運行管理者の不足と高齢化により深夜早朝の対面点呼という業務等が大きな負担となっており、その厳しい現状や更には行政の動向を踏まえ、日貨協連で行っている取組みや自動点呼機器利用者から好評を得ている実情を説明。続いて、AI（人工知能）ロボット（ユニボ）の開発を手掛ける（株）ナブアシスト ロジスティクス 営業部統括主任 日下 拓也氏が実際にユニボで、乗務前後の点呼の流れをモニターに映しながら解説。その活用方法を学びました。



開会に先立ち挨拶を述べる高橋会長



ユニボを用いて自動点呼を実演

メディア懇談会2022を開催

令和4年2月24日（木）、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィングにて、今年で第19回目となるメディア懇談会を開催、県内メディア関係者22名、岩ト協関係者（正副会長、広報委員、事務局）16名が出席致しました。

メディア懇談会は、協会が実施している広報事業の一環であり、社会的影響力の大きいメディア関係各社に対し業界を取り巻く環境の変化やトラック輸送の抱える多くの課題について、正しい理解と協力を求める場として毎年継続して開催しております。

今年は、トラック運送業界の労働をめぐる現状として、運転者不足の深刻化や高騰が続く燃料価格、働き方改革への対応等の課題を挙げ、安定的な輸送を確保する為には、標準的な運賃と燃料サーチャージの仕組みを踏まえた適正な運賃や料金の収受等が必要不可欠であり、このままでは事業者の経営が立ち行かなくなり、従来のサービス水準を維持することが困難となってきている事。また、その事による国民生活や企業活動に与える影響は非常に大きく、国内の基幹産業として、常日頃から暮らしや産業、経済を支えるトラック輸送がコロナ禍においてもエッセンシャルワーカーとして走り続けている事について説明し、業界への正しい理解と協力を求めました。



業界の現状や課題について説明する岩ト協 村上総務課長



メディア各社の取材スタッフも多数来場。懇談会の模様はテレビ等で多数取り上げられました。